

2019年01月08日（水）【外為Lab】松田哲

タイトル：【今年（2019年）の相場は、大きく荒れる??】

年初早々から、大荒れのドル／円相場となっている。

1月2日のニューヨーク市場のドル／円のクローズ（終値）は、108円台後半（108.85-90水準）。

1月2日のニューヨーク市場が終わって、シドニー市場の時間（東京時間の朝8:00前後）に、ドル／円が大きく急落を始めた。

108.50を割り込むと、大口のストップ・ロス（損切り注文）があった様子で、下落が加速し、さらに、108.00を割り込んだ水準にも大口のストップ・ロス（損切り注文）があった様子。

ドル／円が、大きく急落した影響で、クロス円も大幅に急落し、それぞれのクロス円にあったストップ・ロス（損切り注文）をヒットした。

市場参加者が、極端に少ない中、「損切り」が「損切り」を呼ぶ展開となり、ドル／円は、104円台を付けている。

相場が加速した原因に、AIなどを利用したプログラム売買が、いっせいに「ドル売り円買い」を行ったことも挙げられるのだろう。

この年初に付けた安値104円台から、大きく反発して、本日（1月8日）の東京市場では、109.00アラウンドを付けている。

安値104円台から考えれば、ドル／円は、4円以上の上昇を見ていることになる。

総じて、年初早々から、大荒れと言って良いのだろう。

今年（2019年）の相場は、外国為替市場に限らず、株式市場も、大きく荒れるのではないかと危機感を持って臨んでいる。

年初に、ドル／円が急落した理由は、米国株式が大きく急落したことが引鉄（ひきがね）

になっている。

そして、株式市場の変動は、外国為替市場に影響を与えたのだが、影響を受けて変動した外国為替が、今度は株価に影響を与える。

つまり、株価と為替が相互に影響を与えて、大きく変動を繰り返している。

このような関連が始まると、しばらくの期間、継続・持続して、その関連は深まることが多い。

それで、今年（2019年）の相場は、大きく荒れるのではないかと危機感を持っている次第だ。

+++++

（2019年01月08日東京時間15：50記述）